

八戸工業大学 ^{14}C 年代測定報告-2

村中 健*・本田 和也**

Radiocarbon Dating Report of Hachinohe Institute of Technology-No. 2

Takeshi MURANAKA, Kazuya HONDA

Abstract

The authors have measured ^{14}C ages since May, 1987. In this paper, We report 40 ages of the samples measured before 1992 and also describe the related informations for each sample.

1. はじめに

本学の ^{14}C 年代測定は 1987 年 5 月に、低バックグラウンド液体シンチレーションカウンターシステム（アロカ社 LBII）と試料の化学処理装置が導入されたときから始まり、本学紀要第 8 巻（1989.2）には木片、木炭、貝殻など試料別前処理方法からベンゼン合成までの化学処理法について、および初期の ^{14}C 年代測定結果について報告した¹⁾。

その後、青森県埋蔵文化財調査センターをはじめ、県内市町教育委員会ほかから依頼を受けての測定²⁻¹⁴⁾ や、我々が採取した試料¹⁵⁾、採取したものをいただいた試料¹⁶⁾ 等について測定を続けており、同時に計数法¹⁷⁾ や試料処理法¹⁸⁾ についての検討もおこなっている。ここでは 1992 年までにおこなった年代測定結果のうち 40 例について報告する。

2. 記載事項について

記載形式については日本大学放射性炭素年代測定報告を参照した¹⁹⁾。個々の試料についての

記載事項は (a) 実験室のコード番号 (b) 試料採取市町村名 (c) 遺跡名または試料名 (d) 年代値および統計誤差 (1) 試料の採取年月日 (2) 試料の採取場所 (3) 地形図の名称およびその記号番号 (4) 緯度および経度 (5) 試料採取者名 (所属機関名) (6) 測定依頼機関名 (7) 年代測定の意義 (8) 試料の種類 (9) 試料および採取地に関する情報 (10) 試料採取者の推定年代およびこれまでの測定結果、以上であるが、特定の項目が省略される場合もある。実験室のコードは Hachinohe Institute of Technology の頭文字をとって HIT を略称として用いており、その番号は試料を受理した順番を示す。ただし、重量が少なく測定に至らない場合は、そのコード番号は欠番となる。また、バックグラウンド試料、蓆酸標準試料はおよそ 1 年に 1 回作成しているがこれらにもコード番号を付与している。年代値の算出には半減期 5570 年を用い、結果は 1950 年からの年数を表記している。付記した統計誤差は計数値の 1σ に相当する年数である。また、試料の計数率が NBS の標準炭素試料計数率の $\pm 2\sigma$ 以内に入った場合は Modern と表記した。試験依頼がある場合は必ず炭素 14 年代測定依頼書を書いてもらっており、このような場合、記載事項 (1), (2), (4), (5), (6), (7), (8), (9), (10) はこの申込書に記入された事項

平成 5 年 10 月 15 日受理

* エネルギー工学科 助教授

** エネルギー工学科 技術職員